

## 学位論文及び審査結果の要旨

横浜国立大学

氏名	宇都宮 正志
学位の種類	博士(学術)
学位記番号	環情博甲第321号
学位授与年月日	平成26年3月26日
学位授与の根拠	学位規則(昭和28年4月1日文部省令第9号)第4条第1項及び 横浜国立大学学位規則第5条第1項
研究科(学府)・専攻名	環境情報学府 環境生命学専攻
学位論文題目	三浦半島北部における三浦層群と上総層群の境界 (鮮新統から下部更新統)の年代層序と堆積環境
論文審査委員	主査 横浜国立大学 教授 間嶋 隆一 横浜国立大学 教授 有馬 眞 横浜国立大学 教授 石川 正弘 横浜国立大学 准教授 河潟 俊吾 横浜国立大学 准教授 和仁 良二 産業技術総合研究所 地質情報研究部門 副部門長 田中裕一郎

## 論文及び審査結果の要旨

三浦半島北部には新第三紀から第四紀の前弧海盆堆積物である三浦層群と上総層群が露出し、その境界は房総半島の黒滝不整合の延長とされてきたが、その層位学的な位置や存在自体に問題が残されていた。本研究は三浦半島北部における両層群の境界付近の岩相および年代層序を明らかにするとともに、浦郷層の古生物相に基づきその堆積環境を推定した。

三浦半島の三浦層群最上部は池子層(鮮新統)からなり、その上部は主に砂質泥岩層からなる。一方、三浦層群の上位に重なる上総層群最下部は浦郷層(鮮新～下部更新統)からなり、主に泥質砂岩層と砂岩層および礫岩層からなる。凝灰岩層の対比の結果、池子層の砂質泥岩層は浦郷層の泥質砂岩層と砂岩層に側方移化することが明らかとなった。また、池子層には下位から石灰質ナノ化石 *Sphenolithus* spp. 終産出層(3.65–3.52 Ma)、Mammoth(3.33–3.21 Ma) もしくは Kaena 逆磁極帯(3.12–3.03 Ma)、および *Discoaster tamalis* 終産出層準(2.87–2.80 Ma) が認められ、浦郷層には下位から *D. tamalis* 終産出層準(2.87–2.80 Ma)、Gauss 正磁極帯上限(2.58 Ma)、KGP 凝灰岩層(約 2.5 Ma) および *Discoaster pentaradiatus* 終産出層準(2.51–2.39 Ma) が認められた。これらの結果は黒滝不整合によって房総半島の両層群間で欠如している年代(3.0～2.4 Ma)の地層が、三浦半島には存在していることを意味する。以上から、両層群は一部同時異相であることが確実となった。

浦郷層の古水深は貝化石から400から600 mとなり、この結果はこれまで底生有孔虫化石から陸棚以浅で堆積したと考えられていた浦郷層の古水深よりも深い。底生有孔虫化石による古水深は、化石の流れ込みを反映したものである。先行研究による池子層上部の古水深(500から2000 m)をふまえると、本地域では黒滝不整合は形成されず、両層群は大陸斜面上部で連続して堆積して形成されたと考えられる。

審査対象論文は、これまで様々な層位学的解釈がなされてきた三浦半島北部における三浦層群と上総層群の層位関係を、調査ルートごとに作成した柱状図と凝灰岩層の側方追跡に基づく年代層序および古生物相に基づいて明らかにしたものである。本論文は、約300万年前の南関東に広域に形成されたと考えられてきた不整合が三浦半島地域には存在していなかったことを明らかにした点で極めて重要な成果であり、南関東地域の地史を解明する上で極めて重要な貢献である。以上のことから、本論文は、博士(学術)の学位論文に十分に値すると判定した。

注 論文及び審査結果の要旨欄に不足が生じる場合には、同欄の様式に準じ裏面又は別紙によること。